



コミュニケーションセンター上部より

● 国際中学・高等学校
——コミュニケーションセンター完成

コミュニケーションセンターは、1997年9月1日から稼動し、館内どこからでも可能なインターネットアクセス、グループでの共同作業といった先進的学習環境を持つ。

約200台のコンピュータが設置されているがコンピュータ操作だけがメインとなってしまうような施設ではなく個人でリラックスした読書を楽しむ空間であり、人と人がコミュニケーションできる空間である。

開館後半年間の稼働率はすこぶる高い。通常2～3クラスの授業が必ず行われ、昼休み放課後等も300人程度が常に利用している。



コミュニケーションセンター外観



コンピュータを使ってグループワークをしている生徒達



●千宗室氏文化勲章を受章

1997年度の文化勲章受章者に、千宗室氏（'46年経済学部卒業）が宇澤弘文氏（理論経済学者）ら4氏とともに選ばれ、昨年文化の日（11月3日）、親授式が皇居・宮殿で行われた。同志社出身の文化勲章受章者は、'43年の徳富蘇峰、'74年の江崎玲於奈両氏に次いで三人目となる。

「茶道を通じて日本の伝統文化の諸外国への普及と、茶道を以て社会教育に大きく貢献した」ことが受章の理由。茶道界では初の受章となった。

●千 宗室 [せん・そうしつ]

茶道裏千家家元。千利休居士より第15代。斎号、鵬雲斎。

1923年生まれ。'46年同志社大学経済学部卒業。同志社大学名誉学位文化博士。

国際的な広い視野で茶道文化の浸透・発展と世界平和をはかり、世界50カ国以上を歴訪。

“一盃からピースフルネスを”提唱。

ハワイ大学教授、モスクワ大学名誉教授などのほか公職多数。

勲二等旭日重光章。イタリヤ・コメンダトーレ文化勲章など海外の勲章も多数受章。

● Neesima Room 「新島襄と徳富蘇峰—蘇峰永眠40年記念」

明治・大正・昭和3代にわたる大文筆家・徳富蘇峰が94年の生涯を全うして40年になる。今回の展示はそれを記念し、その生涯の業績、ならびに恩師新島襄との関係を再確認する展示である。蘇峰は同志社英学校を卒業直前に中途退学したが、新島に対する強い敬愛の念を生涯失うことはなく、新島の生前、最も信頼された教え子の一人であった。

この展示は1997年11月15日から1998年3月20日まで同志社大学の常設展示場・Neesima Roomで開催している。



新島襄の同志社への遺言（徳富蘇峰筆記）



久保田米穂筆「新島襄先生臨終図」



● 女子大学史料室 「永眠50年記念 M. F. デントン展」

1997年はメリー・F・デントンの没後50年にあたるので、同窓会や女子大学史料室では記念の行事を行った。

デントンは1888年に来日して以来60年間、太平洋戦争中も帰国することなく、生涯を同志社のために捧げた宣教師である。「世界で一番善い国は日本、日本で一番善い所は京都、京都で一番善い学校は同志社、同志社で一番善い学校は女子部」というのが彼女の信条で、その信念通りに生きた。生徒たちは、彼女の行動を通して示された「受くるよりは与えるが幸い」との聖句を生涯忘れられないものとして生き方の指針としてきた。彼女の生涯を辿る展示を本年7月末まで行っている。

